

私たちができること未来の地球のため



環境活動レポート 2017

対象期間 2016年1月1日~2016年12月31日









CONTENTS

| Ι. | 郡山開成学園 環境方針 | |
|------|------------------------------|------|
| | 環境理念、環境方針 | 2 |
| Π. | 郡山開成学園の概要 | |
| | Ⅱ-1 法人名及び組織 | 3 |
| | Ⅱ-2 所在地 | 3 |
| | Ⅱ-3 環境管理責任者及び事務局 | 3 |
| | Ⅱ-4 学園規模 | 3 |
| | Ⅱ-5 大学,短大・附属高校・附属幼稚園概要 | 4 |
| Ⅲ. | 郡山開成学園における環境マネジメント | |
| | Ⅲ-1 環境パフォーマンスとその関連要素 | 5 |
| | Ⅲ-2 環境への取組分野 | 5 |
| | Ⅲ-3 環境への負荷とその関連要素 | 5 |
| | Ⅲ-4 環境マネジメントシステム | 6 |
| IV. | 環境目標及び環境活動計画 | |
| | Ⅳ-1 2016 年~ 2018 年中長期環境目標 | 7 |
| | Ⅳ-2 2016 年環境活動計画 | 8 |
| V. | 環境活動結果 | |
| | V-1 環境目標達成状況及び環境活動計画実施状況 | |
| | (1) 環境負荷の対前年詳細比較 | ~ 10 |
| | (2) 環境目標の達成状況評価 | 11 |
| | (3) 取組結果の評価 | 11 |
| | V-2トピック | 12 |
| | V-3 各部門の取組み13 ~ | ~ 17 |
| | V - 4 緊急事態対応 ······ | 17 |
| | V-5 外部評価・学外表彰 | 18 |
| | V-6 地域貢献活動 | 19 |
| VI. | 環境関連法規等一覧及びその遵守状況確認結果 | ~ 21 |
| VII. | 環境活動結果に関する内部監査及び評価 | |
| | (1) 内部監査 | 22 |
| | (2) 代表者による全体の取組状況の評価及び見直しの結果 | 22 |



I. 郡山開成学園 環境方針

環境理念

学校法人 郡山開成学園は、教育研究をはじめとするあらゆる活動を通じ、地球環境との調和・共存と持続的に発展可能な循環型社会の構築に寄与するため、全学挙げて環境保全活動に積極的に取り組む。

環境方針

1. エコマインドを持った学生・生徒の育成並びに関連教育研究の推進

環境活動に積極的に取り組むエコマインドを持った学生・生徒の育成が急務であることから、人類の福祉及び地球環境保全に貢献できる人材を育成し、また、これらに関わる教育研究活動を行う。

2. 教育研究活動における環境負荷の削減

教育研究活動にともなう環境負荷を低減する目標に向かって、全学を挙げて、省エネルギー、省資源、 廃棄物の抑制と再資源化などに積極的に取り組む。

3. 法規制の遵守

環境関連の法規制を遵守するとともに、環境汚染の予防を図り、自然環境の保全、再生に協力する。

4. 環境関連情報の公開とコミュニケーションの推進

環境理念、環境方針、環境目標、環境活動計画及びその実績等の環境関連文書やホームページ等を通じて、 学内の学生、生徒、教職員や一般社会へ積極的に公開する。

5. 地域貢献

環境分野に関するボランティア(日本環境協会主催のどんぐりプロジェクト及び、郡山市主催のごみゼロキャンペーンへの参加、空間放射線量や食品中に含まれる放射性物質の測定、包括連携協定を締結した市町村等との連携活動、並びに学園施設の一般開放等)を通じ、地域へ貢献する。

2002 年 9月12日制定 2017 年 7月28日最終改定 学校法人郡山開成学園 理事長 関口 修

Ⅱ. 郡山開成学園の概要

Ⅱ-1 法人名及び組織

法人名:郡山開成学園 代表者:理事長 関口 修

■組織

郡山女子大学 : 学長 関口 修 郡山女子大学短期大学部 : 学長 関口 修 郡山女子大学附属高等学校:校長 佐々木貞子 郡山女子大学附属幼稚園 : 園長 賀門 康博

Ⅱ-2 所在地

〒 963-8503 福島県郡山市開成 3 丁目 25 番 2 号

Ⅱ - 3 環境管理責任者及び事務局

環境管理責任者 /郡山女子大学 短期大学部 家政科 食物栄養専攻

准教授 武地 誠一 (環境委員会委員長)

TEL: 024-932-4848 FAX: 024-933-6748

s_takechi@koriyama-kgc.ac.jp

環境委員会事務局/郡山開成学園 法人事務局 管財部

部長 緑川 洋一 (環境委員会副委員長)

TEL: 024-933-1955 FAX: 024-933-1955

kanzai@koriyama-kgc.ac.jp

Ⅱ-4 学園規模

| 学生数(大学・短大) | 869人 |
|------------|--------------------|
| 生徒数(附属高校) | 348人 |
| 園児数(附属幼稚園) | 97人 |
| 教 職 員 数 | 195人 |
| 敷 地 面 積 | 191,184㎡ (57,833坪) |
| 延べ床面積 | 50,948㎡ (15,412 坪) |

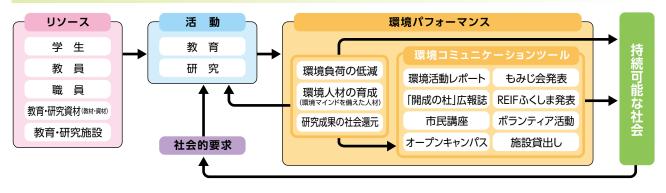
(平成 29 年 5 月 1 日現在)

Ⅱ-5 大学,短大・附属高校・附属幼稚園概要

| 太ノ | 人間生活学研究科 | | | |
|-------|---|---|--|--|
| | 折しい時代には、新しい学問が要求されます。 人間守護」の理念を中心に、総合的かつ専門的に学びます。 | ●中学校及び高等学校専修免許状 (家庭) | | |
| 大学 | 人間生活学科 ■生活総合コース ■福祉コース ■建築デザインコース 人間守護の理念に基づき、思索を重ね人間生活を学究。 哲学基盤をもった新しい家政学」を広く深く学び考え、創造します。 | ●高等学校教諭一種免許状 (家庭・福祉・工業) ●中学校教諭一種免許状 (家庭) ●社会福祉士・介護福祉士 ●一級建築士国家試験受験資格 (実務経験 2 年) 及び二級建築士国家試験受験資格 等 | | |
| 字部食 | き物栄養学科 食品の安全性と健康維持をはかる管理栄養士を養成。 社会や食生活の多様化・国際化に対応できる総合的な指導者を目指します。 | ●管理栄養士(国家試験受験資格) ●栄養士免許 ●栄養教諭一種免許状 ●食品衛生管理者と食品衛生監視員(任用資格) | | |
| 家 | 家政科 福祉情報専攻 家政学を基盤として感性を磨き、 今求められている福祉・情報の知識と技術を学びます。 | ●中学校教諭二種免許状(家庭) ●介護職員初任者研修課程修了証 ●社会福祉主事(任用資格) ●情報処理士 | | |
| Д | 家政科 食物栄養専攻 津康で豊かな食生活をすすめる「栄養士」と、食品業界にかかわる「フードスペシャリスト」 E養成。健康で豊かな食生活のため、広い視野と教養を身につけます。 | ●栄養士免許 ●管理栄養士国家試験受験資格(実務経験3年) ●フードスペシャリスト受験資格 | | |
| 尊 | 切児教育学科 尊敬・責任・自由の精神で、幼児の健全な発達を援助する重要な仕事。 柔軟な指導力、豊かな感性と情緒を持った、人間性豊かな保育者を目指します。 | ●幼稚園教諭二種免許状 ●保育士資格 ●社会福祉主事(任用資格) | | |
| 広 美 | 生活芸術科 €を求め、人間らしい心豊かな生活をめざし、美術・デザインを専門的、実践的に学びます。 4粋で鋭い感性と自由な精神で、潤いのある生活の創造を。 | ●中学校教諭二種免許状(美術) ●池坊華道職位免許状 ●色彩士検定(3級・2級)等 | | |
| | 音楽科 ピアニストへ、声楽家へ、管弦楽奏者へ、音楽教員へ、音楽療法士へ、道が広がります。 し間生活に必要な音楽の世界を感性豊かに学びます。 | ●中学校教諭二種免許状(音楽) ●音楽療法士 2 種認定証書 (全国音楽療法士養成協議会) | | |
| 学 | 文化学科 学芸員へ、司書へ、社会教育主事へ、地域の文化のあらたなる発見と世界へ向けての発信、そ して地域の文化をたえず創造しようとする人材を育成します。 | ●図書館司書 ●社会教育主事補(任用資格) ●学芸員補(任用資格) | | |
| J | 専攻科 文化学専攻 人間の生きた証しである歴史の知識を体系化、深化させるとともに豊かな人間性を培い、総合 な判断力を養います。 | ●文学士(大学評価・学位授与機構) ●社会教育主事(任用資格) ●学芸員(任用資格) | | |
| 個響 | 等通科 圏々の特性に合わせて、全教科にわたって幅広く学習します。1 年次は、共通カリキュラムで学習し、基礎学力の充実を図ります。2 年次からは、自分の進路や適性に合わせて、 I 型(文系)、 I 型(理系)に分かれて学習します。 | | | |
| | 音楽科 -般教科目を精選し、専門課程を強化しながら、各専攻(ピアノ、弦楽器、管楽器、声楽)に分けて、 音楽の才能教育を行う県内唯一の学科です。 | | | |
| 校総 | 美術科 会画、工芸、デザイン等の専門知識を深め、美に対する感覚と技術の向上を目指す県内唯一の 学科です。 | | | |
| | 食物科 栄養、食品、食品衛生等の専門知識や高度な調理技術、技能を身につけ、食文化の継承者として地域社会に貢献する調理師を育てます。 | ●調理師免許 | | |
| (| 年長組 やなぎ組 (5 歳児) さくら組 ● お子さんをよりのばすために、一人ひとりを尊重して、それ ぞれの発達、個性に合わせて保育します。 | | | |
| 幼 | 年中組 (4 歳児) つつじ組年少組 たんぽぽ組たんぽぽ組 ●よい成長のために大学の専門の先生と連携を取りながら保育を進め、また各教室(おとうごきことば教室、英語教室)や子育て相談(を行います。 | | | |
| (| ・ | | | |

Ⅲ. 郡山開成学園における環境マネジメント

Ⅲ-1 環境パフォーマンスとその関連要素



Ⅲ-2 環境への取組分野

| 大項目 | 中項目 |
|----------------------------|----------------------------------|
| | 1) 省エネルギー |
| 1. 事業活動へのインプットに関する項目 | 2) 省資源 |
| 1. 事業治勤、ヘックラグでに関する項目 | 3) 水の効率的利用及び日常的な節水 |
| | 4) 化学物質使用量の抑制及び管理 |
| | 1) 温室効果ガスの排出抑制、大気汚染等の防止 |
| 2. 事業活動からのアウトプットに関する項目 | 2) 廃棄物等の排出抑制、リサイクル、適正処理 |
| 2. 事業心動からのアクトノットに関する項目 | 3)排水処理 |
| | 4) その他生活環境に係る保全の取組等 |
| 3. 製品及びサービスに関する項目 | 1) グリーン購入 |
| 3. 表面及びが一口人に関する項目 | 2) サービスにおける環境配慮 |
| | 1) 生物多様性の保全と持続可能な利用のための取組 |
| 4. その他 | 2) 環境コミュニケーション及び地域貢献 |
| | 3) 施主・事業主における建築物の増改築、解体に当っての環境配慮 |

Ⅲ-3 環境への負荷とその関連要素

| | 環境への負 | 荷 | もととなる活動・設備 | | |
|-------------|--------------|----------|-------------------|--|--|
| | 3,1,3 | 購入電力 | 空調、照明、〇A機器、教育研究機器 | | |
| | | 灯油 | 暖房(体育館) | | |
| | | A 重油 | ピークカット発電 | | |
| 二酸化炭素排出 | 化石燃料 | 都市ガス | 空調、厨房 | | |
| | I LI LI KWAT | LP ガス | 空調、風呂 | | |
| | | ガソリン | 学園車両等 | | |
| | | 軽油 | 園児送迎車両等 | | |
| | | 白上質紙 | 教育、研究 | | |
| | 一般廃棄物 | 新聞紙 | 図書館等 | | |
| | | 段ボール | 納入品包装 | | |
| | | その他の紙 | シュレッダー、雑誌 | | |
| | | 缶 | 自動販売機 | | |
| 廃棄物排出 | | ペットボトル | 自動販売機 | | |
| 元 未 10 17 山 | | 厨房ゴミ | 学生食堂、調理実習、寮給食 | | |
| | | 汚泥 | グリストラップ | | |
| | 産業廃棄物 | 金属くず | 廃自転車 | | |
| | | 廃食用油 | 調理実習 | | |
| | 特別産廃 | 廃油 | 実験実習 | | |
| | | 廃酸、廃アルカリ | 実験実習 | | |
| | 水使用 | | トイレ、手洗い、飲料 | | |
| | 化学物質 | | 実験、実習 | | |
| | 物質使用(コピ | 一用紙) | 教育研究 | | |

Ⅲ-4 環境マネジメントシステム

■エコアクション 21 認証・登録



認証·登録番号 0000091

■エコアクション 21 とは

エコアクション 21 認証・登録制度は、広範な中小企業、学校、公共機関などに対して、「環境への取組を効果的・効率的に行うシステムを構築・運用・維持し、環境への目標を持ち、行動し、結果を取りまとめ、評価し、報告する」ための方法として、環境省が策定したエコアクション 21 ガイドラインに基づく、事業者のための認証・登録制度である。

本学園は 2004 年 12 月 24 日教育機関では全国初となるエコア クション 21 認証・登録を受け 2016 年に 6 回目の更新審査を完 了した。



■ 実施体制



■役割

| 最高環境責任者 (学長・理事長) | ・環境方針を定め、教職員に周知する。 ・環境方針を毎年1月に見直し、必要があれば改訂する。 ・医A21を効率的に実施するために環境委員会、環境委員長、副委 員長、及び環境委員の任命を行い実施体制を構築し、役割と責任 を定め、全教職員に周知する。 ・毎年3月に実施体制を見直し、必要に応じて変更を行う。 ・代表者は毎年1月に前年度のEA21の取組状況を評価し、全体的 な見直しを行い、修正が必要な場合には環境委員会委員長に指示 を行う。(年1回) |
|--|--|
| 内部監査委員 | ・毎年 11 月に環境経営システムが EA21 ガイドライン要求事項に合致しているか検証する。 ・その環境経営システムに有効性があるか、また、環境経営システムに定められている活動内容が環境方針、環境目標の達成に適切なものとなっているか検証する。 ・内部監査チェックリストにより行う。 |
| 環境委員会(委員長、委員) | ・環境方針、環境への負荷及び環境への取組状況のチェック結果を基に環境目標を策定し、達成のための活動を行う。 ・毎年1月に前年度の達成状況を把握・評価し、必要により見直しを行う。 ・毎年1月に環境目標を達成させるための単年度ごとの環境活動計画を作成し、実行する。 ・3ヵ月ごとに実施状況と実績を把握し、評価する。 ・実施状況に問題がある場合は是正処置を行い、次年度の計画策定に反映させる。 |
| 環境委員会事務局 (管財部) | ・毎年1月に前年度の事業活動に伴う環境負荷を調査し、「環境への負荷の自己チェック表」を完成させ、見直しをする。 ・毎年1月にチェック表による法令等の遵守状況を確認する。 ・ EA21 を適切に実行するために EA21 の意識と概要の教育及び、必要な場合は訓練を実施する。 ・ 毎年環境活動レポートを作成し、学長、理事長の確認を得て公表する。 ・ EA21 の実施に必要な文章を作成し、保管する。 ・ EA21 の取組に係る記録等を作成する。 ・ 作成された記録を集め、整理し、保管する。 |
| 学生サポーター (ナチュラルライフスタイル部:以下NLS部) (郡山女子大学エコレンジャー) | ・NLS 部員は環境委員会サポーターとして環境活動に協力する。 ・郡山女子大学エコレンジャーは eco 検定受験対策講座のサポーターとして環境委員会に協力する。 |

IV. 環境目標及び環境活動計画

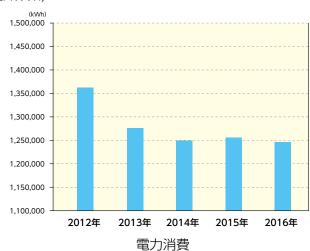
Ⅳ - 1 2016 年~ 2018 年中長期環境目標

本学園は、以下7つの主項目に対し、目標値を掲げて環境活動に取り組んでいる。

| | | 項目 | 単位又は区分 | 基準年実績 | 2016年目標値 2016年1月~12月 | 2017年目標値 2017年1月~12月 | 2018年目標値 2018年1月~12月 |
|--------------------|-----------------------|-------------------|-----------------------------------|-------------------|-------------------------|-------------------------|-------------------------|
| - | | | 学位 文 体区力 | 2015年 1月~12月 | 基準年比削減率% | 基準年比削減率% | 基準年比削減率% |
| | | | eco 検定 受験講座 | 受講者数6名 合格者数1名 | 受講者数 10 名 合格者数 4 名 | 受講者数 10 名 合格者数 4 名 | 受講者数 10 名 合格者数 4 名 |
| I | | インドを持った 、生徒の育成 | 環境関連図書購 入数 | 環境関連図書購入数 22 冊 | 24 ⊞ | 28 ⊞ | 30 冊 |
| | | | 学生,生徒の環 境関連サークル 活動支援 | NLS 部 部員数 40 名 | 40名 | 42名 | 44名 |
| 一酸 | 一酸化炭素排出量の削減 (CC) ##出景 | | kWh | 1,259,519 | 1,246,923 (-1.0%) | 1,234,328 (-2.0%) | 1,221,733 (-3.0%) |
| 化炭素排 | | | m | 52,498 | 51,973 (-1.0%) | 51,448 (-2.0%) | 50,923 (-3.0%) |
| が出量の | | | m | 82,806 | 81,977 (-1.0%) | 81,149 (-2.0%) | 80,321 (-3.0%) |
| 削 | 削 CO2 排出量 | | Kg-CO₂ | 1,228,745 | 1,216,457 (-1.0%) | 1,204,170 (-2.0%) | 1,191,882 (-3.0%) |
| | : | 水使用量 | m | 28,546 | 28,260 (-1.0%) | 27,975 (-2.0%) | 27,689 (-3.0%) |
| | 紙使用量 | | kg | 11,753 | 11,635 (-1.0%) | 11,517 (-2.0%) | 11,400 (-3.0%) |
| 一般廃棄物排出量 (可燃ごみ) | | | kg | 102,900 | 101,871 (-1.0%) | 100,842 (-2.0%) | 99,813 (-3.0%) |
| 化学物質の適正管理 | | | _ | 化学物質の 適正管理 | 年 1 回の保管状況 調査により適正管理 | 年 1 回の保管状況 調査により適正管理 | 年 1 回の保管状況 調査により適正管理 |
| グリーン調達の推進 | | | 取扱消耗品 (280 品目) のグリーン 適合品 | 262 品目 (93.6%) | 264 品目 (94.3%) | 266 品目 (95.0%) | 268 品目 (95.7%) |

(電気事業者名:㈱エネット、実排出係数 0.418kg-co₂/kWh)





Ⅳ - 2 2016 年環境活動計画

| 方 | □ ## | 口無法武士机 | 責任部門 | | | | | ス | ケジ | ュー | ル | | | | |
|---------------|---|--|--------------------------|----------|----|----|----|----|----|----|----------|----|-----|-----|---------------|
| 方 針 | 目 標 | 目標達成手段 | 実施部門 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 |
| エコマ | 環境社会検定試験(eco 検定)受験講座 2016年目標 受講者目標 10名 | アドバイザーへ募集要項を配布し学生へ呼びかけ | 環境委員長 環境委員 緑川 | | | | | | | | | | 募集 | 開始 | 受験 |
| エコマインドを持っ | 通常授業の中で環境配慮について教示する | 各教員による教示 | 環境委員長 各教員 | | | | 開始 | | | | - | 開始 | | | — |
| った学生、生徒 | 環境関連の新規図書購入数アップ 2016 年新規図書購入数目標 20 冊 | 図書委員に働きかけ | 環境委員長 環境委員 和知 | | | | | 開始 | | | | | | | |
| 生徒の育成 | 学生・生徒の環境関連 サークル活動支援 | 学生・生徒へ呼びかけ | 環境委員長 | | | | | 開始 | | | | | | | |
| | 電力の削減 | ・節電対策 ・BEMS による見える化 | | 説明 | 運用 | | | | | | | | | | \Rightarrow |
| 排二酸化量化 | 電力量 12,595kWh 2015 年基準年比 削減率 - 1.0% | (本部キャンパス) ・不要照明の消灯 | 環境委員 会事務局 | 実施実施 | | | | | | | | | | | \Rightarrow |
| 量化炭素 | 都市ガス、LP ガスの削減 都市ガス 524㎡ | ・待機電力の削減・クールビズ運動 | 管財部 | | 策定 | | | | | | | | | | |
| 减素 | LP ガス 828㎡ 2015 年基準年比 削減率 – 1.0% | (冷房 28℃) ・ウォームビズ運動 (暖房 20℃) | | | | | | | 開始 | | - | | | 開始 | |
| 排出量削 | 一般廃棄物の削減 一般廃棄物量 1,029kg | ・一般廃棄物削減目標説明 ・学内 LAN の有効利用 (文書の電子化 E-mail) ・裏白使用、両面コピー、 | 環境委員会 事務局 | 説明実施 | | | | | | | | | | | → |
| 削物減 | 2015 基準年比 削減率 – 1.0% | 印刷の徹底 ・分別の徹底による再資 源化量増加 | 管財部 | 実施実施 | | | | | | | | | | | |
| 節 | 水の削減 | ・水削減目標説明・トイレ擬音装置使用の | 環境委員会 事務局 | 説明 実施 | | | | | | | | | | | |
| 水 | 水使用量 285㎡ 2015 年基準年比 削減率 – 1.0% | 徹底 ・無駄水削減の徹底 ・漏水の早期発見 | 管財部 | 実施実施 | | | | | | | | | | | \Rightarrow |
| 紙 | 紙使用量の削減 | ・学内 LAN の有効利用 | 環境委員会 | 説明 | | | | | | | | | | | |
| 紙 削使 減用 | 紙使用量 113kg 2015 年基準年比 削減率 - 1.0% | (文書の電子化 E-mail) ・裏白使用、両面コピー、 | 事務局 | 実施実施 | | | | | | | | | | | \Rightarrow |
| 量 | 20.0 1 12 133/12 110.70 | 印刷の徹底 | 管財部 | 天心 | | | | | | | | | | | |
| グリーン | 消耗品 280 品目をグリーン購入法 適合品に変更する。 2015 年基準年比 90%以上 | ・消耗品のグリーン購入 ・家電機器、OA 機器等 はエネルギー消費効率 の高い機器を購入 | 管財部 | | | | | 0 | | | | | | | |
| 化学薬品 | PRTR 法対象物質 並びに毒物、劇 物の保管、管理を適正に行う | ・年 2 回 PRTR 法対象物 並びに毒物、劇物の保 管、管理状況 調査を 行う。 | 環境委員会 管財部 | | | | | 0 | | | | | 0 | | |
| 年間活動 | □ 環境教育○ 緊急事態対応訓練○ 環境関連法規等の遵守評価○ 代表者による評価と見直し | 環境目標、活動計画の周知 安全防災訓練 法令遵守 第三者評価 | 環境委員会 事務局 防災管理 | 0 | | | | | | | | | | | |
| 動 | ○環境活動レポート | 作成と地域事務局への提出 | 委員会 | | | | | | | | | | | | 0 |

実績: ● (実践) 月次、累計とも達成○/月次又は累計が達成△/月次、累計とも未達成×・環境管理責任者は3ヶ月毎に確認し、取り組みに問題がある場合は指示を行う。 ・代表者は、環境管理責任者の報告を受け必要に応じて指示を行う。

V. 環境活動結果

V-1 環境目標達成状況及び環境活動計画実施状況

(1) 環境負荷の対前年詳細比較

■電気使用量

| 20 | 2015年 (kWh) | | | | | | | |
|----|--------------------|---|----|----|-----------|--|--|--|
| | 電 | Ŝ | ₹ | | 12ヵ月計 | | | |
| 大 | | | | 学 | 969,376 | | | |
| 大 | 学 | 体 | 育 | 館 | 11,444 | | | |
| つ | つ | | じ | 館 | 1,651 | | | |
| 附 | 属 | | 高 | 校 | 263,031 | | | |
| 宿 | 泊研修 | 棟 | ・武 | 道館 | 14,017 | | | |
| | | 計 | | | 1,259,519 | | | |

| 201 | | | | | | |
|-----|-----|---|----|----|-----------|----------------------|
| | 電 | | 気 | | 12ヵ月計 | |
| 大 | | | | 学 | 975,176 | +5,800kWh +0.60% |
| 大 | 学 | 体 | 育 | 館 | 11,354 | -90kWh -0.79% |
| つ | つ | | じ | 館 | 1,269 | -382kWh -23.1% |
| 附 | 属 | | 高 | 校 | 248,344 | -14,687kWh -5.58% |
| 宿汨 | 白研修 | 棟 | ・武 | 道館 | 13,720 | -297kWh -2.12% |
| | | 計 | | | 1,249,863 | -9,656kWh -0.77% |
| | | | | | | • |



■ LP ガス使用量

| 20 | 2015年 (㎡) | | | | | | | | | |
|-----|------------------|----|----|-----|---|---|--------|--|--|--|
| | | LF | っガ | ス | | | 12ヵ月計 | | | |
| 創 | | | 学 | | | 館 | 486 | | | |
| 6 2 | 2 年 | 館 | , | 8 3 | 年 | 館 | 16,197 | | | |
| 本 | 館 | , | | 芸 | 術 | 館 | 20,277 | | | |
| 幼 | | | 稚 | | | 袁 | 4,041 | | | |
| 家 | | | 庭 | | | 寮 | 14,955 | | | |
| 普 | 通 | 教 | 室 | 東 | 西 | 棟 | 10,663 | | | |
| 特 | 別 | 教 | 室 | 東 | 西 | 棟 | 13,202 | | | |
| 管 | | | 理 | | | 棟 | 2,985 | | | |
| | | | | | | | | | | |

82,806

| 2016年 | (m³) | | |
|---------|------|--------|-------------------|
| LP ガス | | 12ヵ月計 | |
| 創 学 | 館 | 404 | -82㎡ -16.87% |
| 62年館、83 | 年館 | 15,696 | -501㎡ -3.1% |
| 本館、芸術 | 館 | 19,834 | -443㎡ -2.18% |
| 幼稚 | 袁 | 4,081 | +40㎡ +0.99% |
| 家 庭 | 寮 | 15,816 | +861㎡ +5.76% |
| 普通教室東西 | 5 棟 | 9,951 | -712㎡ -6.68% |
| 特別教室東西 | 5 棟 | 12,393 | -809㎡ -6.13% |
| 管 理 | 棟 | 2,911 | -74㎡ -2.54% |
| 計 | | 81,086 | -1,716㎡ -2.07% |
| · | | | |



■都市ガス使用量

計

| 2015 | 年 | (m³) | | |
|------|-----|-------|---|--------|
| į | 郭 市 | 12ヵ月計 | | |
| 大 | | | 学 | 1,797 |
| 講 | | | 堂 | 24,544 |
| 創 | è | 学 | 館 | 21,191 |
| 幼 | Ŧ | 准 | 園 | 43 |
| 寮 | 1 | 号 | 館 | 473 |
| 寮 | 2 | 号 | 館 | 2,925 |
| 高 | | | 校 | 1,510 |
| 宿 | 泊石 | 开 修 | 棟 | 15 |
| | Ī | Ħ | | 52,498 |

| 2016 | 2016年 (㎡) | | | | | | |
|------|------------------|----|-----|---|--------|--------------------|--|
| ŧ | 都 市 | ī; | ガ ス | ξ | 12ヵ月計 | | |
| 大 | | | | 学 | 1,574 | -223㎡ -12.41% | |
| 講 | | | | 堂 | 20,321 | -4,223㎡ -17.21% | |
| 創 | | 学 | | 館 | 21,299 | +108㎡ +0.51% | |
| 幼 | | 稚 | | 袁 | 53 | +10㎡ +23.26% | |
| 寮 | 1 | | 号 | 館 | 657 | +184㎡ +38.9% | |
| 寮 | 2 | | 号 | 館 | 3,613 | +688㎡ +23.52% | |
| 高 | | | | 校 | 2,153 | +643m +42.58% | |
| 宿 | 泊 | 研 | 修 | 棟 | 24 | +9㎡ +60.0% | |
| | | 計 | | | 49,694 | -2,804m -5.34% | |
| | | | | | | • | |





■水使用量

| 2015年 | (m³) |
|---------|--------|
| 使用箇所 | 使用量 |
| 市水 | 4,546 |
| 専 用 水 道 | 24,000 |
| āt | 28,546 |





■ 一般廃棄物排出量



■ 生ごみ処理量



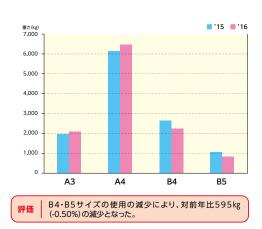
■紙使用量

2015年

| サイズ | 枚 数 | 重さ (kg) |
|-----|-----------|---------|
| А3 | 240,000 | 1,920 |
| A4 | 1,537,500 | 6,150 |
| B4 | 445,000 | 2,670 |
| B5 | 337,500 | 1,013 |
| 計 | 2,560,000 | 11,753 |

2016年

| サイズ | 枚 数 | 重さ (kg) | |
|-----|-----------|---------|-------------------|
| А3 | 265,500 | 2,124 | +204kg +10.62% |
| A4 | 1,620,000 | 6,480 | +330kg +5.37% |
| B4 | 380,000 | 2,280 | -390kg -14.61% |
| B5 | 270,000 | 810 | -203kg -20.04% |
| 計 | 2,535,500 | 11,694 | -59kg -0.50% |



(2) 環境目標の達成状況評価

2016年における環境目標の達成状況は、下表のとおり。エコマインドを持った学生、生徒の育成については、eco検定受験対策講座、環境関連図書購入は環境目標は達成したが NLS 部の部員数に係る環境目標は未達成だった。環境負荷の削減に係る環境目標については、CO2 排出量、水使用量、紙使用量は対前年比より減少したが、一般廃棄物排出量は対前年比を超過した。又、化学物質の適正管理、グリーン調達の推進に係る環境目標を達成した。

表:環境目標及びその達成状況 (期間 2016年1月~12月)

| | 項目 | | 項 目 単位又は区分 | | | | 2016 年目標値 2016 年 1 月~ 12 月 | 2016 年実績 2016 年 1 月~ 12 月 | 達成状況 達成○○ |
|--------|--------------|---------------|---------------------------|-----------------------|----------------------------------|-------------------------|-------------------------------|------------------------------|--------------|
| | | | 半世文は四月 | 2015年 1月~12月 | 基準年比 | 削減率% | 末達成 × | | |
| | | | eco 検定受験講座 | 受講者数 15 名 合格者数 2 名 | 受講者数 15 名 合格者数 4 名 | 受講者数 10 名 合格者数 4 名 | 0 | | |
| | | ドを持った 走の育成 | 環境関連図書購入数 | 10 ⊞ | 20 ⊞ | 25 ⊞ | 0 | | |
| 3 - | テエ、工作の自成 | | 学生,生徒の環境関連 サークル活動支援 | NLS 部員数 37 名 | 40名 | 35名 | × | | |
| +41- | 電力 | り使用量 | kWh | 1,259,519 | 1,246,923 (- 1.0%) | 1,249,863 (- 0.8%) | \triangle | | |
| 排出量の削減 | 使用量料 | 都市ガス | m³ | 52,498 | 51,973 (- 1.0%) | 49,694 (- 5.3%) | 0 | | |
| の炭素 | 量燃料 | 量料 | LP ガス | m³ | 82,806 | 81,977 (- 1.0%) | 81,086 (- 2.1%) | 0 | |
| /19% | CO | 2 排出量 | Kg-CO₂ | 1,228,745 | 1,216,457 (- 1.0%) | 1,179,917 (- 3.9%) | 0 | | |
| | 水使用 | 用量 | m³ | 28,546 | 28,260 (- 1.0%) | 28,332 (- 0.8%) | Δ | | |
| | 紙使用 | 用量 | kg | 11,753 | 11,635 (- 1.0%) | 11,694 (- 0.5%) | Δ | | |
| — | 投廃棄物 (可燃) | 勿排出量 ごみ) | kg | 102,900 | 101,871 (- 1.0%) 102,970 (+0.07% | | × | | |
| 化学 | 物質の | 適正管理 | _ | 化学物質の 適正管理 | 年 1 回の保管状況 調査により適正管理 | 年 1 回の保管状況 調査により適正管理 | 0 | | |
| グリ | 一ン調 |]達の推進 | 取扱消耗品(280 品目) のグリーン適合品 | 262 品目(93.6%) | 264 品目(94.3%) | 269 品目(96.1%) | 0 | | |

(3) 取組結果の評価

- 1. エコマインドを持った学生、生徒の育成
 - ① eco 検定受験講座

平成 24 年より再開した eco 検定受験講座の見直しを行い、演習を中心とした方式として、10 名が受講し6名が第21回 eco 検定試験を受験したところ4名が合格し環境目標を達成した。

- ②環境関連図書購入数は、25冊で対前年度比+15冊の大幅増となり環境目標を達成した。
- ③学生、生徒の環境サークル活動支援

NLS 部部員数を 40 名に増員する目標に対して、部員数は 35 名で、5 名の減員となり、環境目標を達成できなかった。

2. 二酸化炭素排出量の削減

二酸化炭素排出量に係る環境目標を、基準年実績 1,228,745kg-CO2 の 1.0%減の 1,216,457kg-CO2 以下とした。 実績は、1,179,917kg-CO2 で対前年比 -3.9%の減少となり環境目標を達成できた。

3 水使田量の削減

水使用量に係る環境目標を、基準年実績 28,546㎡の 1.0%減の 28,260㎡以下とした。実績は、28,332㎡で対前年比 -0.85%の減少となり環境目標をほぼ達成した。

4. 紙使用量の削減

紙使用量に係る環境目標を、基準年実績 11,753kg の 1.0%減の 11,635kg 以下とした。実績は、11,694kg で対前年比 -0.5%の減少となり環境目標をほぼ達成した。

5. 一般廃棄物排出量の削減

一般廃棄物排出量に係る環境目標を、基準年実績 102,900kg の 1.0%減の 101,871kg 以下とした。実績は、 102,970kg で対前年比、+0.07%の微増となり環境目標を達成できなかった。

6. 化学物質の適正管理

化学物質に係る環境目標を、毒物・劇物、向精神薬、核原料物質、病原性微生物、PRTR 対象物質、危険物等化学物質の保管状況を各関係法に則り厳格に管理している。

実績は、化学物質取扱者と円滑なコミュニケーションを取りながら各関係法に則り厳格に管理する事ができ環境目標を達成できた。

7. グリーン調達の推進

グリーン調達に係る環境目標を、購買部取扱い消耗品類 280 品目中 264 品目(94.3%)をグリーン購入適合品にすることとした。実績は、269 品目(96.1%)がグリーン購入適合品となり、環境目標を達成できた。

V-2 トピック

■タンクステンコートによる貯水槽再生

FRP 貯水槽は紫外線に弱く、経年劣化により更新を余儀なくされていたが、 タンクステンコートの施工により貯水槽が強化され、産業廃棄物の発生を抑え、 省資源化に繋がった。



■生ごみ処理機の更新

既設堆肥型から微生物の力で分解により取出し不要の生ごみ処理機(シンクピア)に更新した。尚、保管していた堆肥は、 学校林(石筵開成の杜)へ散布した。







■エアスイングファンの導入(3ヵ年計画の3年目)

暖房時、天井付近 30℃、足元 15℃と温度ムラがあったため、エアスイングファンを導入し、室内温度の均一化を図った。設定温度を低く抑えつつ快適な教室環境が実現できた。





■マグネシウム空気電池を搭載した自動販売機を設置

アサヒ飲料株式会社が企画した、福島県内の避難所にマグネシウム空気電池を搭載した自動販売機を 100 台設置するプロジェクトに応募した所、本学が選定され、東日本大震災時に避難施設となった創学館 1 階に設置した。

非常時には照明やパソコン、テレビ等の電源が確保でき、避難者の安全や情報収集が可能となる。



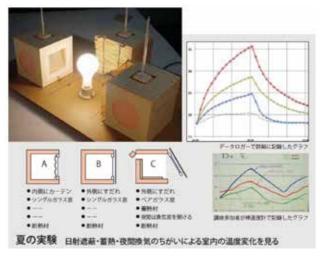
Vー3 各部門の取組み

■郡山女子大学

● 人間生活学科

人間生活学科建築デザインコースでは、身近な熱環境をよく理解するために、箱模型実験をとおして省エネルギーで 快適な住まい方や環境配慮型建築について学修している。建物に見立てた箱に、断熱材や蓄熱材、遮蔽材、窓材などを 取り付け、太陽に見立てた電球を用いて一日の温度変化を確認。箱模型の条件を変化させながら、自然エネルギーを最 大限に活かした、夏涼しく、冬暖かい「快適な住まい方」ついて考え、エコで快適な暮らしを実現させる。





● 食物栄養学科

● 新装トイレ・制服自由化・共有スペースの利用に関するアンケート調査を実施。

創学館と 62 年館のトイレが新装され、また、制服の自由化から約 1 年半が経過した。そこで、今後の学生生活をさらに向上することを目的にアンケートを実施した。

①トイレの新装

「新装されたトイレについてどう思うか」の問いに良いと思うが 90% を超えていた。「トイレの数はどうか」「トイレの広さについて」の質問に対してはそれぞれ 80.7% および 81.1%が適切であるとの回答であった。「ハンドドライヤーの設置について」の質問に対してはあったほうがよいとの回答が 72.5%を占めた。また、新装トイレに関する主な意見として最多だったのは「水流が弱い」の 32.8%であった。

②制服の自由化

「制服の自由化についてどう思うか」の質問に対し、よかったと思うが87.3%、「制服がなくなって感じたこと」として、自由な雰囲気、ファッション、服の選択が面倒という回答が多かった。

③共有スペース(62年館マリールーム、ラーニングコモンズ室)の利用

マリールームは飲食の場 65.5%、会話の場 54.5%として利用されており、特に飲食物のにおいが臭いことが問題点であることが明らかとなった。

また、62年館ラーニングコモンズ室はコピーの場 59.6%、勉強の場 25.1%として、学生は利用しているコピー機の台数が少ないなどの問題点 が明らかになった。



■郡山女子短期大学部

● 家政科福祉情報専攻

ボランティア活動の一環として、学校周辺の清掃活動を行っている。活動を通して、学校の周辺のゴミの多さに驚いており、気持ちよく過ごすための環境維持のためにも、清掃活動は大切であることを学んだ。





● 家政科食物栄養専攻

食品学や調理学等において、環境と生産、調理、 廃棄・リサイクル等の課題について、環境や食育の 観点から指導している。

2016年は、学生全員が県農業総合センター主催の「田んぼの学校」に参加し、田植えから稲刈りまで、講義と実習により環境と農業について学習・体験した。





● 幼児教育学科

毎年、3Rフェスティバルに参加し、ゴミの減量を呼びかけている。また、幼稚園児と一緒に農業体験(サツマイモ栽培)を実施している。





● 生活芸術科

福島第一原子力発電所事故で避難区域となっていた葛尾村の復興支援に関わっており、村のイメージキャラクターのデザインや、村人が帰郷し、お盆を過ごすイベント(灯明アートプロジェクト)に参加している。





● 音楽科

個々人の練習場所として、多くの部屋を使用している。自分が使用した部屋の電気、エアコン等、一人一人責任を持って管理できるよう指導している。また、楽譜などのコピーは、必要量を最小限行い、不要になったコピー用紙等はリサイクルしている。

● 文化学科

地域の環境と人々の生活について知見を深める授業を行っている。また、考古学演習では発掘調査に参加し、資料整理、分析を行い、博物館等で発表している。





■ 郡山女子大学附属高等学校

● 高校における環境活動

①節水・節電 …ポスターによる啓発や LED 照明導入







②リサイクル活動…紙、空缶、ペットボトル、食用油等をリサイクルしている。







③食育活動…農業体験、減るしぃレシピコンクールへ出展







④花壇への花の植栽







⑤地域の行事(うねめ祭り)への参加





家庭寮



■ 寮生数

| 許容数 | 1 号館(36 名) | 2号館 (80名) | 合計 (116名) |
|-----|------------|-----------|-----------|
| 大学生 | 20 | 15 | 35 |
| 短大生 | 15 | 17 | 32 |
| 専攻科 | 1 | 1 | 2 |
| 高校生 | _ | 6 | 6 |
| 計 | 36 | 39 | 75 |

● 主な取り組み

1. 節電・節水の呼びかけ

○寮内の設置器具はすべて省エネ対応となっています。 必要のない電気は消す、コンセントを抜くことで更に節電します。





自動水栓

節電シール

2. 「エコキャップ収集運動」への参加

○環境委員会で行われている「エコキャップ収集運動」に参加して7年目となります。

3. ゴミの分別

4. 古紙回収ボックスの設置







みんなで協力

エコ活動!!

生ゴミ、燃えるゴミ、燃えないゴミ…それぞれ分別

古紙回収ボックス

5. 環境対策

○寮内の衛生・美化に努める : 毎日の寮内清掃・大掃除を計画的に行います。

○エコアンケートの実施 : 年1回、エコに関するアンケートを行います。

○調理室排水溝清掃 : 業者により年4回行います。

○屋内消毒 : 業者により年3回、9:00~15:00まで閉寮し寮内の消毒を行います。

○放射線量対応 : 食品検査 (提供食材を学園のゲルマニウム半導体分析装置にて測定)

○空間線量測定 (開寮中実施し掲示板に記載)

■ 年間平均

 $(\mu SV/h)$

| 事務室前 | 1号館台所 | 1号館寮生室 | 2号館寮生室 | | |
|------|-------|--------|--------|--|--|
| 0.05 | 0.07 | 0.09 | 0.06 | | |

■ エコアンケート集計結果より

| | 1位 | 2位 | 3位 |
|-----------------|--------|-------------|----------|
| 実践しているエコは? | エコバック | エコキャップ | マイボトル |
| はじめに思いつくエコ製品は? | 再生紙 | ペットボトルリサイクル | ソーラー式充電 |
| 寮でもっと取り組みたいエコは? | エコキャップ | ゴミの分別 | グリーンカーテン |

■ 大学図書館

大学図書館では2010年度より継続して、3年から5年の保存期間が終了した雑誌希望者へ提供することによって、「雑 誌リサイクル・リユース」を実施している。2016年には、「もみじ会」においても開催し、多くの本がリサイクルされ た。また、図書館 2 階ベランダで、グリーンカーテン(アサガオ・フウセンカズラ)の栽培を行い、採取した種を福島 復興再生可能エネルギー産業フェア 2016 の来場者へ提供した。







■ 事務局

● 環境及び防災視察対応

2016年8月27日(土) 東松山市議会議員5名が本学の環境及び、防災に関する視察を行った。

環境委員会事務局より、これまでの環境活動と、本学の防災(東日本大震災前後の取組等)について説明。



■ NLS 部(ナチュラルライフスタイル部)

もみじ会(学園祭)において、福島県環境創造センター及び日本原子力開発機構との連携事業(3年連続)を実施。近隣住民や学生、保護者の内部被曝量をWBC車で測定し、NLS部員が専門家と共に測定結果に対してアドバイスを行った。

更に、福島復興再生可能エネルギー産業フェア 2016に出展し、郡山女子大学の再生可能エネル ギー発電状況や NLS 部の活動内容を周知した。



本館購買部前の池ではカルガモが孵化し、ミドリガメが産卵した。









V-4 緊急事態対応

■ 防災訓練

9月14日(水)午後1時より、学生、教職員 及び委託者794名が大学、短大安全防災訓練を 実施した。建物毎に定められた4ケ所へ分散避 難を短時間で行い、冷静沈着に避難ができた。





■ 大規模災害を想定した炊出し訓練

東日本大震災後に備蓄していたアルファ米等の 賞味期限が迫っており、有効利用する目的で教職 員 25 名が炊出し訓練を行った。本学はガス炊き 空調機 (GHP) 用バルクタンク (ガス燃料タンク) があり、ガスの供給が止まった場合でも、専用の 器具を接続することで温かい料理を作ることが可 能。参加者からは、「味は、想像していたよりも 美味しかった」、「避難先で温かい豚汁が食べられ ると思うと幸せ」との感想があった。

本訓練に参加した教員より、是非学生にも体験 させたいとの要望があり、調理実習や集会の時間 を利用し、学生向けの訓練も実施した。











V-5 外部評価・学外表彰

■ サステイナブルキャンパス評価システムで「ゴールド認証」(2016.2.29)

サステイナブル推進協議会 (CAS-Net JAPAN) 主催の「サステイナブルキャンパス評価システム」(Assessment System for Sustainable Campus = ASSC アスク) において、2014 年及び 2015 年に参加した 45 大学のうち本学が「ゴールド認定」を獲得しました。

□ プラチナ: 名古屋大学

□ ゴールド: 大阪府立大学、日本工業大学、京都大学、琉球大学、郡山女子大学、

静岡大学、電気通信大学、九州大学



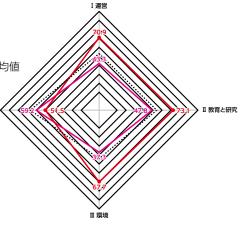


4 部門得点率(%) 郡山女子大学

桃色は私立大学(13 校)の平均値 点線は回答のあった国内34大学の平均値

サステイナブルキャンパス評価システム 結果フィードバック

| 大学名 回答者 | | 回答日 |
|------------|-------|----------------------|
| 郡山女子大学 | 緑川 洋一 | 平成 26(2014)年 11 月 |



■ 第 19 回 環境コミュニケーション大賞 環境活動レポート部門「優良賞」(2016.2.24)

環境省、一般財団法人地球・人間環境フォーラム主催の第 19 回環境コミュニケーション大賞において、環境活動レポート部門 応募総数 107 点の中から本学の環境活動レポートが評価され、「優良賞」を獲得しました。





V-6 地域貢献活動

■ うねめ祭り

震災復興と地元を元気付けるため、4年連続でうねめ祭りに参加し 「準大賞」を獲得した。

○第49回うねめ祭り(2013年)大賞

○第50回うねめ祭り(2014年)大賞

○第51回うねめ祭り(2015年)準大賞

○第52回うねめ祭り(2016年)準大賞



■ わくわくこども大学

2016年8月8日(日)小学生を対象とした「わくわく子ども大学」を開催し、実験・体験・遊びの場を提供した。

又、保護者向けコース「いらいらしないしつけのヒント」を企画し、 子どもと同時に参加できるプログラムとした。



■ 施設の開放

東日本大震災以降、地域貢献と復興の一環から、「文化祭」、「コンサート」、「講演会」、「検定試験会場」等として広く一般開放している。

○2016年 102件 29,502名



■ 包括連携協定の締結

地域社会の発展に貢献するため、JA 福島さくら、本宮市、葛尾村と包括連携協定を締結し、おのおのと連携事業を行っている。



大学生によるブルーベリー定植作業



高校生による田植・稲刈り体験



子育て支援



高齢者いきいき交流事業



イメージキャラクターデザイン



灯明アートプロジェクト

VI. 環境関連法規等一覧及びその遵守状況確認結果

表:環境関連法規等一覧兼遵守状況確認結果

判定→遵守、対応済:○ 未実施、抜けあり:×

| 法 | | ・肥、扱けのり・メ | 該当する | 点検・測定頻度 | 届出・報告 | | | 遵守評 | . | | |
|------------------|--|--------------------------------|--|--|-------|------|--------|----------------|--------------|------------|----|
| 法規制等の | 該当する要求事項 | 法令条項 | 設備・項目 | 実施時期 | 許可 | 届出報告 | 資 格 | 届出先 | 関連部門 | 証拠 | 判定 |
| | 一般廃棄物排出者 の収集・運搬委託 | 第6条の2第6、7項 規則第1条の17、18 | 一般廃棄物 (紙や木屑) | 1 回/年 (平成28年4月1日更新) | | | | | 管財部 | 許可証 | 0 |
| | 産業廃棄物排出者 の収集・運搬委託 保管基準 60cm × 60cm | 第12条5~7項 | | 契約書/ 許可書につき 1回/年 処分場変更に | | | | | | 契約書 許可証 | 0 |
| 産業廃 | 以上の表示 飛散、浸透防止、 衛生管理 | 第12条2項、 規則8条1~3号 | 産業廃棄物 | 伴う覚書 (平成27年10月29日締結) | | | | | | | |
| 産業廃棄物処理法 | マニフェスト交付 A、B2、D、E 票 の保管 (5 年間) | の3 | (廃油、廃酸、 廃アルカリ) | マニフェスト新規 交付票 1回~2回/年 / 平成28年 6月 1日 | | | | | 管財部 | | |
| 冱 | D票 90 日、E 票 180 日以内に送付 されない場合は、 30 日以内の知事 への報告 | 規則8条の19~ | | 平成 28年 6月 9日 平成 28年 9月 1日 平成 28年 12月 1日 平成 29年 2月 24日 平成 29年 3月 1日 | | | | | | マニフェスト | 0 |
| | 産業廃棄物管理票 交付等 状況報告書の提出 | 12条の3第7項 | 汚泥・廃油 | 1 回/年 (平成28年4月18日届出) | | 0 | | 郡山市長 | | 報告書 | 0 |
| 建築基準法 | 特殊建築物定期調査報告書 | 12条第1項 | 大学主要校舎 8 棟 25,647㎡ 高 校 1 棟 10,557㎡ 家庭寮 2 棟 3,497㎡ 放送大学福島 学習センター 1 棟 546㎡ | 1回/3年 (平成27年9月29日収受) | | 0 | | 郡山市長 | 管財部 | 報告書 | 0 |
| | 建築設備定期検査報告書 | 12条第3項 | 大学主要校舎設備 8 式 高校校舎設備 1 式 家庭寮設備 2 式 放送大学福島 学習センター設備1 式 | 1回/3年 (平成27年9月29日収受) | | 0 | | 郡山市長 | | 報告書 | 0 |
| | 消防用設備等(特 殊消防用設備等) 点検結果報告書 | 17条3の3 | 本館他 16 棟の消防用設備(特殊消防用設備等)の保守点検結果 | 1回/1年 幼稚園のみ2回/年 (平成28年6月5日届出) | | 0 | | 郡山 消防 署長 | 管財部 環境保全室 | 報告書 | 0 |
| 消防法 | 危険物の安全管理 (A 重油) | 11 条、 10 条第 3、第 4 項 13 条 | 指定数量以上の危 険物を貯蔵又は取 扱う場合。施設の 構造は、「技術上 の基準」を遵守。 危険物取扱者の設 置。 | | 0 | | | | 管財部 環境保全室 | 自主 点検票 | 0 |
| 組合火災予防条例郡山地方広域消防 | 危険物の安全管理 (灯油) | 38条 54条 | 少量危険物(指定 数量の 1/5 以上) ・貯蔵・取扱い基 準の遵守 ・届出 | (白灯油) 450 Q 以下3ヵ所 (毎月月末点検) | | 0 | | 郡山 消防 署長 | 管財部 環境保全室 | 届出書 | 0 |

| 法 | | | =カルナフ | 上4个 测点矩阵 | 届出・報告 | | 報告 | | 遵守評 | 価 | |
|---|--------------------------------|---------------------------|---|--|-------|------|--------|---|--------------------|-----------|----|
| 法規制 名称 の | 該当する要求事項 | 法令条項 | 該当する 設備・項目 | 点検・測定頻度 実施時期 | 許可 | 屈田報告 | 資 格 | 届出先 | 関連部門 | 証拠 | 判定 |
| 防 止 法 | 平成 27 年度大気 汚染物質排出量総 合調査票 | 2条第2項 | 講堂都市ガス炊き 冷温水発生機の稼 働実績 | 1回/3年 (平成27年11月12日届出) | | 0 | | 環境省 水・大気 環境局 | 管財部 | 調査票 | 0 |
| 下水道法 | 特定施設 (洗浄施設) の 安全管理 | 5 条第 1 項 | 家 政 学 館 3 階 理化学実験室(大 学)、特別教室棟 1 階 No.3 理 科 室 (高校) 実験用廃液 | 1回/3年 廃油、混合水溶液、 180ポリ容器又は ガラス瓶 (平成27年10月30日調査) | 0 | | | | 管財部 | マニフェスト | 0 |
| 防火 | 構造等に関する基 準遵守義務 | 12条の4、規則9条2の2、2の3 | 本館 3 階薬品庫 | 1回/3年 (平成27年10月30日調査) | | | | | 管財部 | 自主 点検票 | 0 |
| 防止法 防止法 | 定期点検の義務 | 14条第5項 規則8条の2から7 | 本館 3 階 薬品庫廃液 | 2回/3年 (平成27年4月1日·10月30日調査) | | | | | 管財部 | 自主 点検票 | 0 |
| 神薬取締法 | 平成 28 年度向精神薬試験研究施設設置者年間届出書 | 50条の5第1項 | バルビタール、フェ ノバルビタール、バ ルビタールナトリウ ム、アモバルビター ルの使用、保管 | 1回/年 (平成29年1月10日届出) | | 0 | | 福島県知事 | 管財部 | 届出書 | 0 |
| 則に関する法律物質及び原子炉の規核原料物質、核燃料 | 平成 28 年上期核燃料物質管理報告書 | 67 条第 1 項 規則 7 条第 20 項 | 酢酸ウラニル亜鉛 (25g) の保管・管理 | 2 回/年 (平成28年7月7日· 平成29年1月10日届出) | | 0 | | | 管財部 | 報告書 | 0 |
| 毒物劇物取締法 | 毒物、劇物の安全管理 | 11 条第 1 項施行令 第 40 条 | 毒物 85 品目中 7 品目所有内 3 品目 使用 劇 物 299 品目中 47 品目所有内 20 品目使用 | 1 回/年 (平成28年11月25日確認) | | 0 | | | 管財部 | 自主 点検票 | 0 |
| 関する法律(PRTR法)量把握等及び、管理の促進に特定化学物質の環境への排出 | | 附則第3条 | 第 1 種指定化学物質 462 品目中 55品目所有内 5品目使用第 2 種指定化学物質 100品目中 14品目所有使用無 | 1 回/年 (平成 28 年 11 月 25 日確認) | | | | 年間 1t 世別 用の際 発生 日間の際 産産 産化 管属 を 実産 学 理出 | 化学薬品 取扱者 管財部 | 調査票 | 0 |
| 境汚染への対処に関する法律出された放射性物質による環原子力発電所の事故により放 | 除染により発生した埋設汚染土の保 | 特別措置法 39 条第 3 項 | 大学運動場、学生 駐車場、宿泊研修 棟前、高校北側学 園関係者駐車場 計4ヵ所 | 除染終了後届出、 埋設状況確認 (随時) (平成27年1月27日届出) | | 0 | | 郡山市長 | 管財部 | 届出書 | 0 |
| 道路交通法 | 安全運転管理者の 選任と交通安全教 育の実施 | 74条の第3 | 安全運転管理者の 選任定員 11 人以 上の車両1台以上、 その他の車両5台 以上 | 平成 28 年度安全 運転管理者等講習 会出席 (平成 28 年 6 月 1 4 日) | | | 0 | 福島県 公安 委員会 | 総務部車両係 | 表彰状 | 0 |

環境関連法規への違反はありません。なお、関係当局より違反等の指摘は昭和 24 年の設立以来ありません。

Ⅲ. 環境活動結果に関する内部監査及び評価

(1) 内部監査

| 1. 監査対象 | 学校法人郡山開成学園における環境活動 | |
|----------|---|---|
| 2. 監査実施日 | 平成 28 年 11 月 29 日 | |
| 3. 監査担当者 | 内部監查委員/水野時子、平栗洋三、岡部玲奈 | |
| 4. 監査目的 | EA21 内部環境監査 | |
| 5. 監査項目 | ①内部環境監査チェックリスト(環境経営システム)により確認 ②内部環境監査チェックリスト(環境活動レポート)により確認 ③事務局より 2016 年環境活動計画書の各目標の達成状況と環境活動の報告 ④大学、短大、高校、幼稚園、家庭寮、及び図書館各委員より各部門における 2016 年の環境 活動についてプレゼンテーション ⑤質疑応答、講評 | |
| 6. 監査講評 | 監査委員氏名 | 講評結果 |
| | 水野監査委員 | 各環境委員の取組内容をもっと学内に周知することを徹底してほしい。短 大各学科の特色が環境活動に生かされている事が良く分かった。 |
| | 平栗監査委員 | 高校佐々木委員の報告以外に附属高校では、JA 福島さくらと食物科が連携により田植(正面玄関に成長の様子を掲示)から稲刈り、そして収穫した米をもみじ会のどんぐり食堂、集団調理実習であさか舞(郡山産米)として振る舞った。又、JRC 活動でエコキャップ運動も行っている。校内環境においては、老朽化している生徒用トイレの改修が急務である点等、年次計画の実施について是非ともお願いしたい。 |
| | NLS 部 岡部 (学生代表) | NLS 部員として様々な環境活動に参加しているが、高校や幼稚園等でもこんなに活動しているとは知らなかった。各学校等における環境活動がもっと皆に分かるようにしてほしい。エコ大学として来年以降も NLS 部が大いに活躍できるようしっかりと部員間の連携強化と新入部員の確保を図りたい。 |

(2) 代表者による全体の取組状況の評価及び見直しの結果

本学園は、2004年12月24日に教育機関では、全国初となるエコアクション21の認証・登録を受け、環境活動を継続して行っている。このたび、2016年2月29日にサスティナブルキャンパス推進協議会よりASSC(サスティナブルキャンパス評価システム)にてゴールドであることを認定された。全国で9校のゴールドに選ばれたことは大変喜ばしい事である。今後とも教育機関における環境活動の手本となるよう取り組んでいく。

さて、2016年エコアクション21の取り組みは、環境方針の第1に掲げる環境活動に積極的に取り組むエコマインドを持った学生の一環としてeco検定の受験を推奨しているが、東日本大震災以降、学生受講者数の減少が見られていたが、2016年は学内エコレンジャーのサポートにより改善が見られた。

二酸化炭素排出量は、年間 12 t の排出量削減目標を掲げたが、今夏の酷暑の影響や教室内の快適環境の要望により冷暖房期間の延長を続けたにもかかわらず、LED 化の進捗等、省エネルギー対策により、対前年比 48.8 t (-3.97%)の減少となっている。

廃棄物排出量は、年間 1.0 $\,$ t の一般廃棄物削減目標を掲げ、全学においてリサイクルの徹底を図ったが、対前年比 0.07 $\,$ t $\,$ (+0.07%) の微増となった。

資源利用量は、全学で水使用量及び紙使用量を1%削減する目標を掲げ節水対策及び漏水対策により、対前年比 - 214㎡ (-0.75%) の減少となった。

今後とも学園関係者(学生、生徒、園児、教職員及び保護者)の意思統一を図り、エコアクション 2 1 の取組の充実 発展を確実に行うこととする。

> 平成 29 年 1 月 30 日 学校法人 郡山開成学園

理事長









地球は、わたしたち現世代の人間だけのものではなく、わたしたちの子どもや孫の世代を含む未来のすべての世代の生存に対して責任があるということを 認識しましょう。

(世代間公平の考え方より)